

京都府立植物園に関わる北山エリア整備基本計画の見直しを求める要請署名

要請の趣旨

京都府は、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるうなか、北山エリア整備基本計画を2020年12月に策定しました。京都市にある北山エリアには、97年の歴史を持つ府立植物園、府立大学、国宝・東寺百合文書等歴史資料や公文書を備えた府立京都学・歴彩館が存在し文化環境ゾーンとして整備されてきました。京都府はエリア全体を民間の資金やノウハウを活用し賑わいと交流のエリアとして改変しようとしています。その一つに植栽場所及び面積の縮小を伴う府立植物園の改変が行われようとしています。

府立植物園における整備計画では、

- 1、大芝生地でイベント等が周年開催できる野外ステージの設置が含まれています。 その場所は、子供たちからお年寄りまで家族でゆっくりとくつろげる場所として活用されている所です。
- 2、府立植物園の北山通り側の植物植栽場所の一部を商業施設等に作り変える計画です。 そこには、北山通りに面したウバメガシの生垣、絶滅危惧植物保全温室、絶滅危惧種園、中国植物園、四季彩の丘、つばき園、さくら品種見本園、エノキなど賀茂川原植生の樹木が有ります。
- 3、府立植物園西側・賀茂川沿いから自由に出入りできるようにするために、バックヤードが削られたり移動したりしなければならない可能性があります。 バックヤードでは植物の播種、育成の作業が年間を通じて行われています。美しい花、希少な植物を良い状態で園内に送り出すために、弱った植物を治療し回復させるために、最大限活用されている植物園のいわば心臓部です。

京都府が新たに作ろうとしている商業施設等は、このバックヤードや希少な植物を植栽する場所よりも価値があるものなのでしょうか。バックヤードや植栽地に手を加えることによって環境が変わってしまい長年守り続けられてきた繊細な希少植物が枯れてしまう可能性があります。

私たちは、この整備計画について一旦立ち止まり、民間事業者の利益優先でなく、地域住民や現場職員の意見にもとづき、府立植物園を京都府民並びに全国の自然と植物を愛するすべての人たちのために守り、発展させたいと願っています。

要請の事項

京都府に「北山エリア整備基本計画」（府立植物園に関わる）の見直しを求めます。

- イベントのための大芝生地の野外ステージ設置の見直し。
- 北山通り側の植物園敷地内での商業施設建設の見直し。
- 賀茂川沿い植物園バックヤードの縮小・移動などの見直し。

氏 名	住 所

2021年4月 ※この署名用紙は、京都府知事への要請以外に個人情報を利用されることはありません。

【取扱団体】

※「京都府立植物園整備計画の見直しを求める会」（別称 なからぎの森の会）

《連絡先》吉澤喜代一 〒606-0851京都市左京区下鴨梅ノ木町62-2 Email: simogamoaoi@outlook.jp

※「北山エリアの将来を考える会」 Email : kitayamaeria.c@gmail.com